

リンゴJM系台木の特徴

福島県果樹試験場栽培部
平成11～15年研究成績書
福島県農業試験場会津地域研究支場
平成11～15年研究成績書

1 部門名

果樹ーリンゴー形態・生育相
分類コード 04-01-05000000

2 担当者

遠藤敦史・桑名 篤・宗形 隆・永山宏一・勝又治男

3 要旨

JM系台木利用樹における生育の特徴を把握するため、「つがる」、「ほおずり」(果樹試験場)、「ふじ」、「陽光」(農業試験場会津地域研究支場)との親和性について調査した。また、「ふじ」の生育に対するJM系台木の種類と収量について調査した。

- (1) 接ぎ木親和性を接ぎ落ちや枯死、生育程度という点から判断するとJM2およびJM7については、いずれの品種においても問題が認められなかった。しかし、「陽光」/JM1の組み合わせでは極端な生育不良が認められた。また、「陽光」/JM8は凍害に弱い傾向が認められた。
- (2) 「ふじ」の樹体生育は、幹周肥大、樹高、樹冠拡大のいずれにおいてもJM7がやや旺盛で、JM1が劣った。また、JM8はM.26に最も近い生育を示した。一樹当たりの収量はJM7及びJM8が結実当初からM.26を上回っており、結実4年目(7年生)では約9kg多かった。JM1は最も収量が低く経過した。また、果実品質には差が認められなかった。
- (3) JM系台木の種類について接ぎ木親和性、樹体生育、果実生産性を評価するとJM7が最も安定していると考えられた。

4 その他の資料等

なし